

第4章 日常の生活空間に対する認識

第4章 日常の生活空間に対する認識

1. 居住地に対する希望（問7）

(1) 居住の意向（問7）

今住んでいるところに今後も住みたいと思うか、県民の居住に対する希望について、5つの選択肢から選んでもらった。

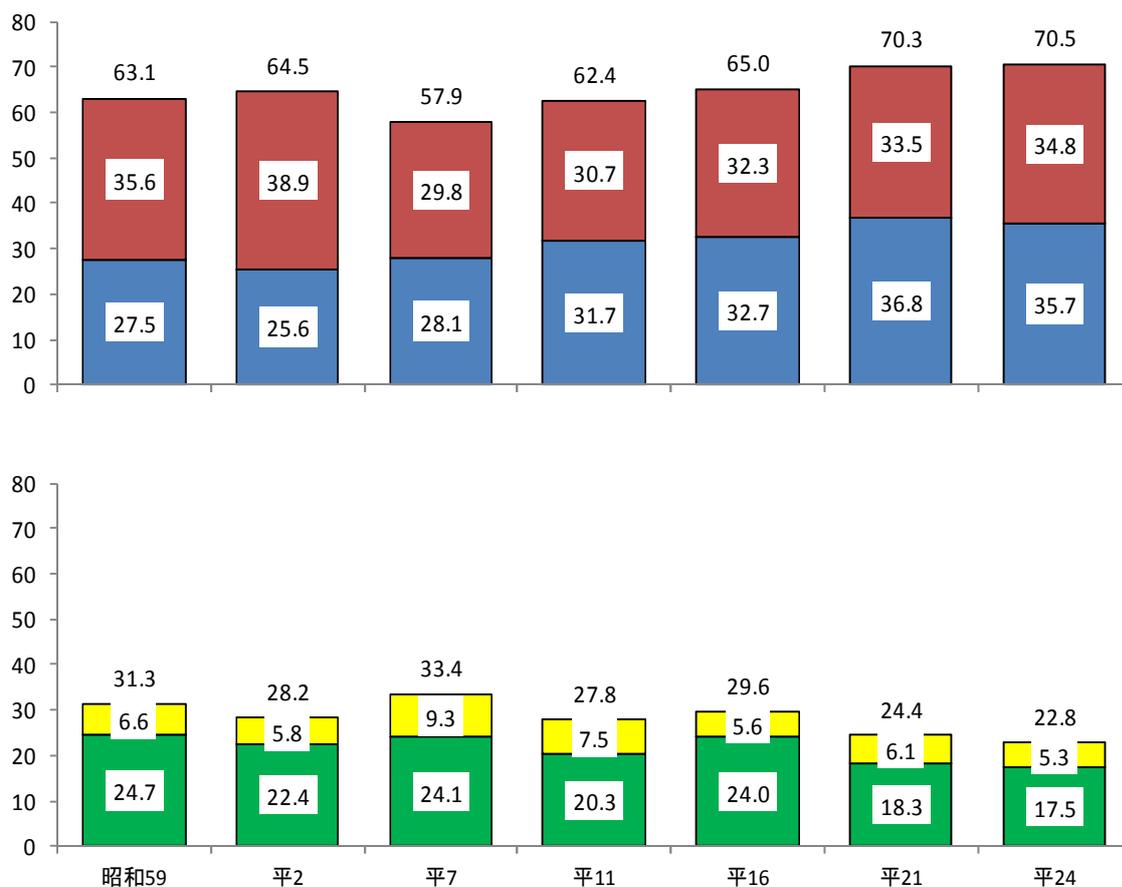
「いつまでも今住んでいるところに住みたい」と考えている「永住志向型」と「特に住み続けたいというほどではないがよそに移る気もない」と考えている「現住地居住志向型」の2つを「定住型」として、「できれば今すぐにでもよそへ移りたい」と考える「即移転志向型」と「いつかはよそへ移りたい」と考える「潜在的移転志向型」の2つを「移転型」に分類した。

また、そう考える理由や、よそに移りたいと回答した者についてはその移転希望先を5つの選択肢から選んでもらった。

「定住型」は前回と比較して0.2ポイント増の70.5%。「移転型」は前回と比較して1.6ポイント減の22.8%を示して県全体として今までと同様に移転意向より定住意向がより強いことを示している。

時系列で見ると、平成11年に「現住地居住志向型」は「永住志向型」と逆転して、「永住志向型」より「現住地居住志向型」の比率が高い傾向が今回まで維持されている。

図 4-1-1 居住の意向 (%)

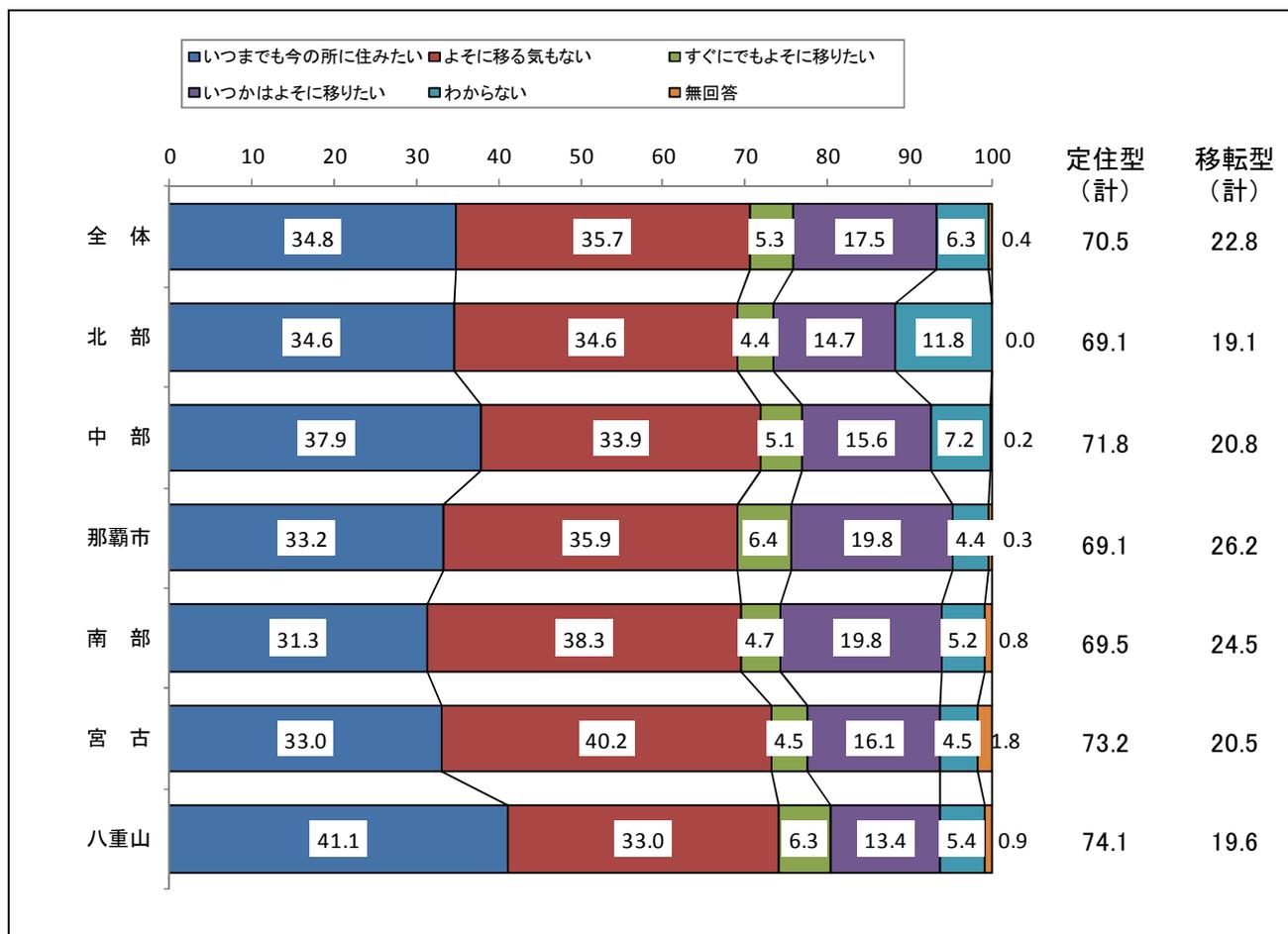


定住型	■ 永住志向型	いつまでも今住んでいるところに住みたい
	■ 現住地居住志向型	特に住み続けたいというほどではないがよそに移る気もない
移転型	■ 即移転志向型	できれば今すぐにでもよそへ移りたい
	■ 潜在的移転志向型	いつかはよそへ移りたい

居住の意向を地域別に見ると、那覇市、南部は「いつかはよそに移りたい」の項目がともに19.8%と高い数値を示して、「移転型」の計は、那覇市で26.2%、南部で24.5%とともに約4人に1人の比率である。これに対し、宮古、八重山地域がそれぞれ73.2%、74.1%と高い定住の意向を示している。

また、「いつまでも今のところに住みたい」は、八重山が41.1%、続いて中部の37.9%と高い数値を示した。

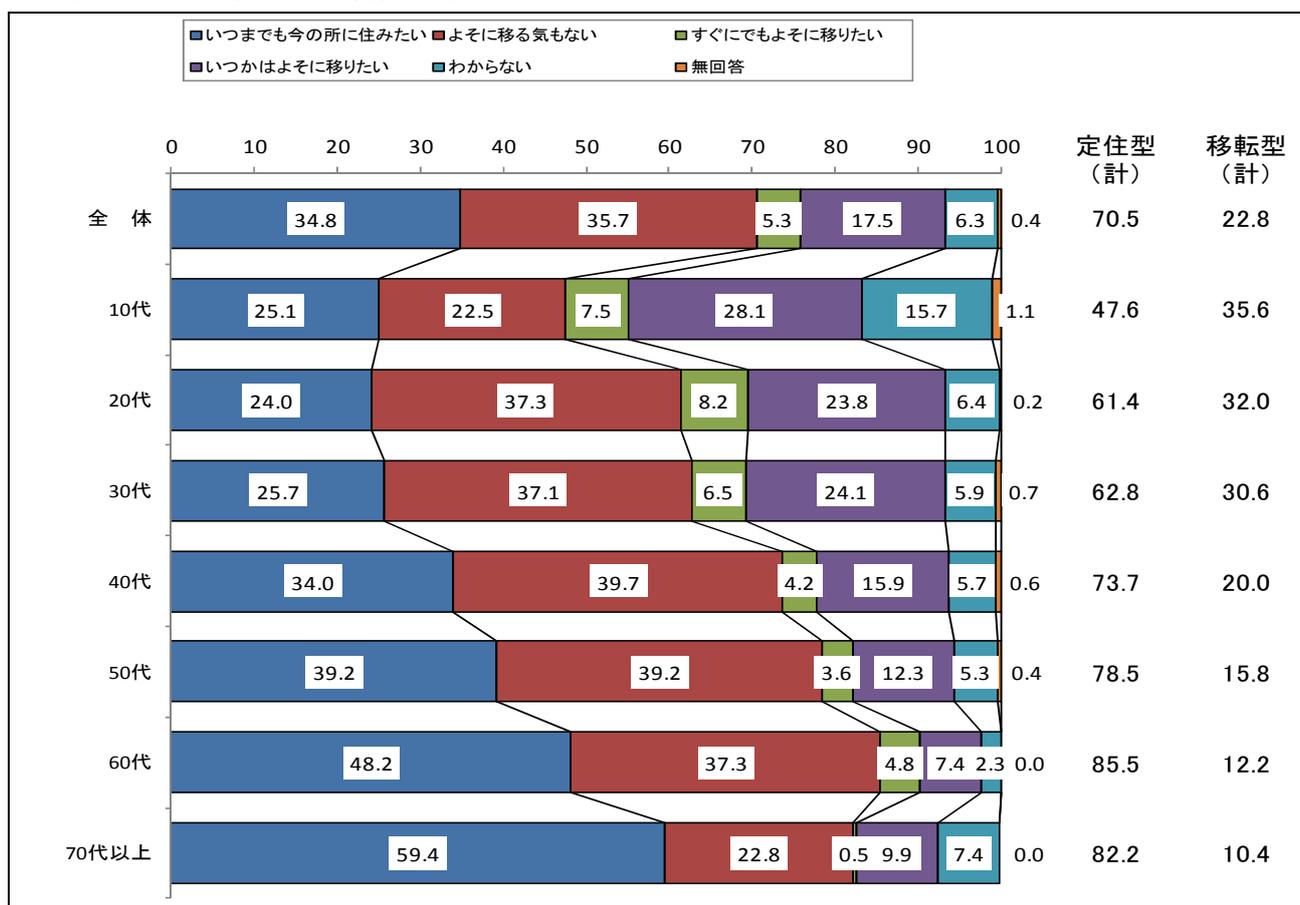
図 4-1-2 地域別 居住の意向 (%)



居住の意向を年代別に見ると、図 4-1-3 から明らかなように 60 代の定住型は 85.5%と最も高く、70 代が、82.2%と 60 代に次いで高い。年代が上がるほど、よそに移りたいという気持は減少して、定住の意向が強くなることがうかがえる。

これとは対照的に、10 代、20 代、30 代の若い世代は、「いつかはよそに移りたい」と考えている人が 20%を超えている。

図 4-1-3 年代別 居住の意向 (%)



(2) 定住希望の理由（問 7-1）

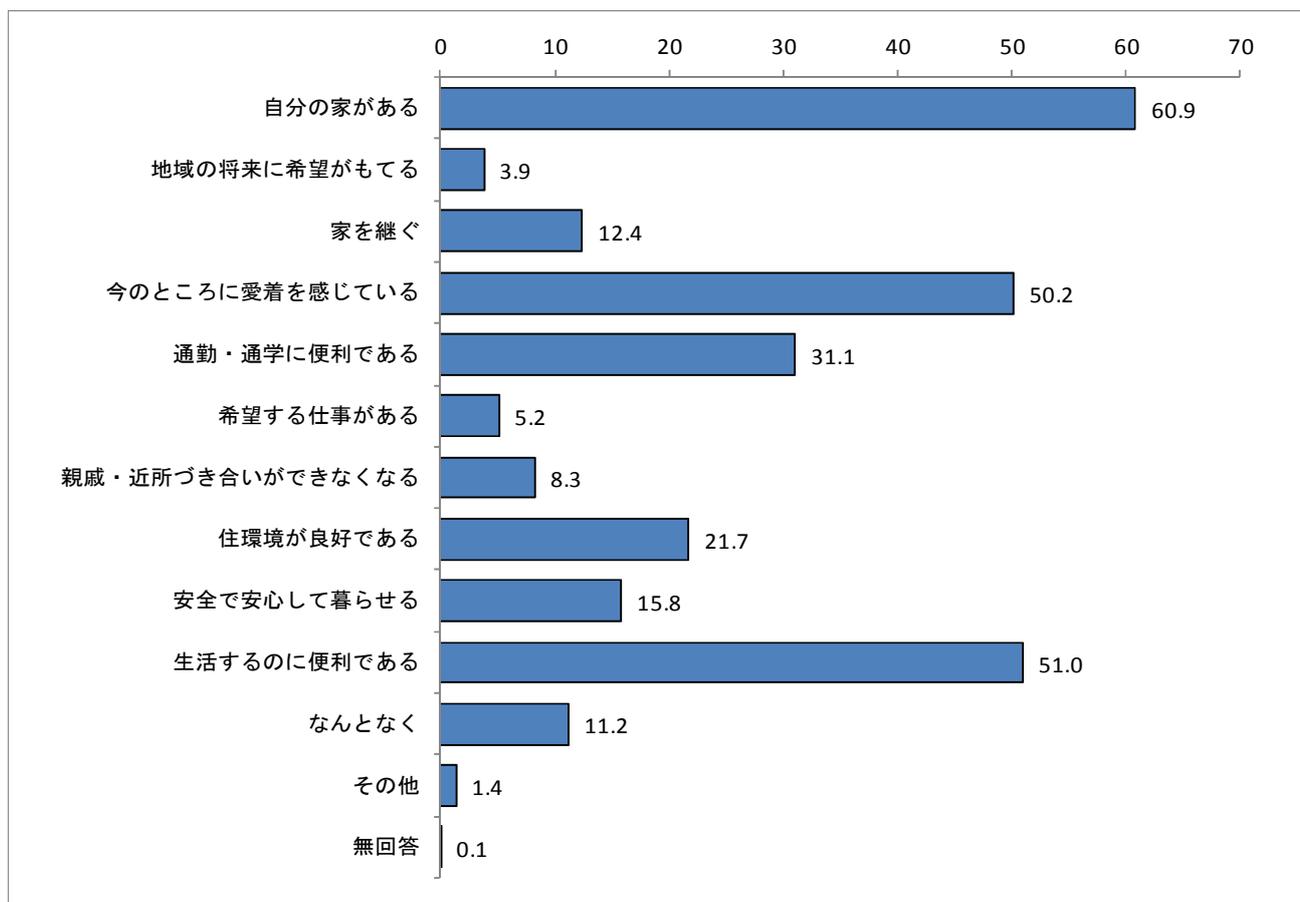
「定住型」の回答者に対して、定住を希望する理由を3つ選択してもらった。

問 7-1 の変更一覧

選択肢の新規追加
<ul style="list-style-type: none"> ・通勤・通学に便利である ・今住んでいるところに希望する仕事がある
選択肢の削除
<ul style="list-style-type: none"> ・今の仕事に満足している ・わからない

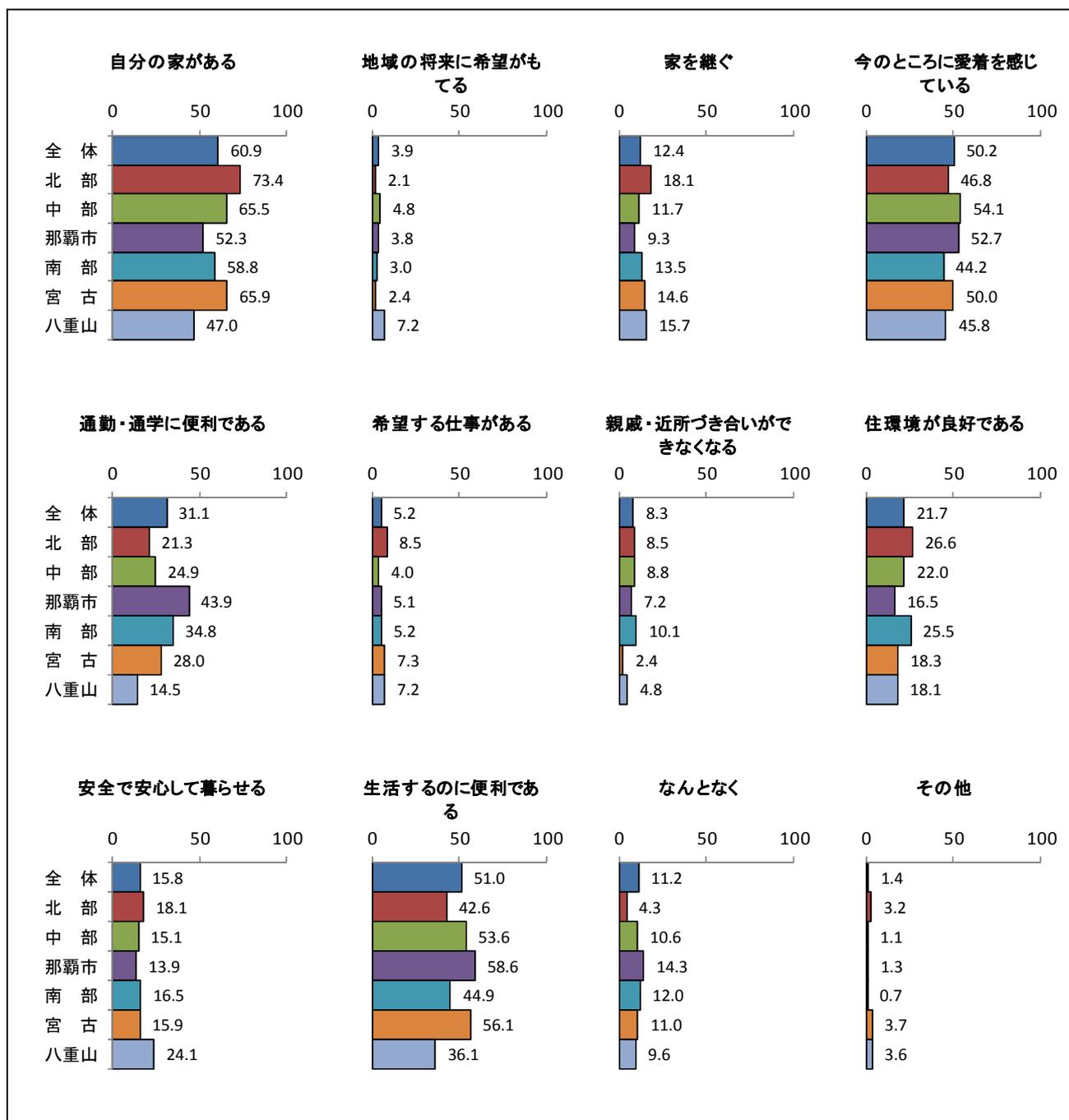
前回の結果と同じように「自分の家がある」(60.9%)が最も高く、続いて「生活するのに便利である」(51.0%)、「今住んでいるところに愛着を感じている」(50.2%)が上位にある。今回新たに選択肢として加えられた「通勤・通学に便利である」という項目が31.1%と上記3つの項目に続く位置を占めていることは居住地と通勤・通学との密接な関係を表している。

図 4-1-4 定住希望の理由 (%)



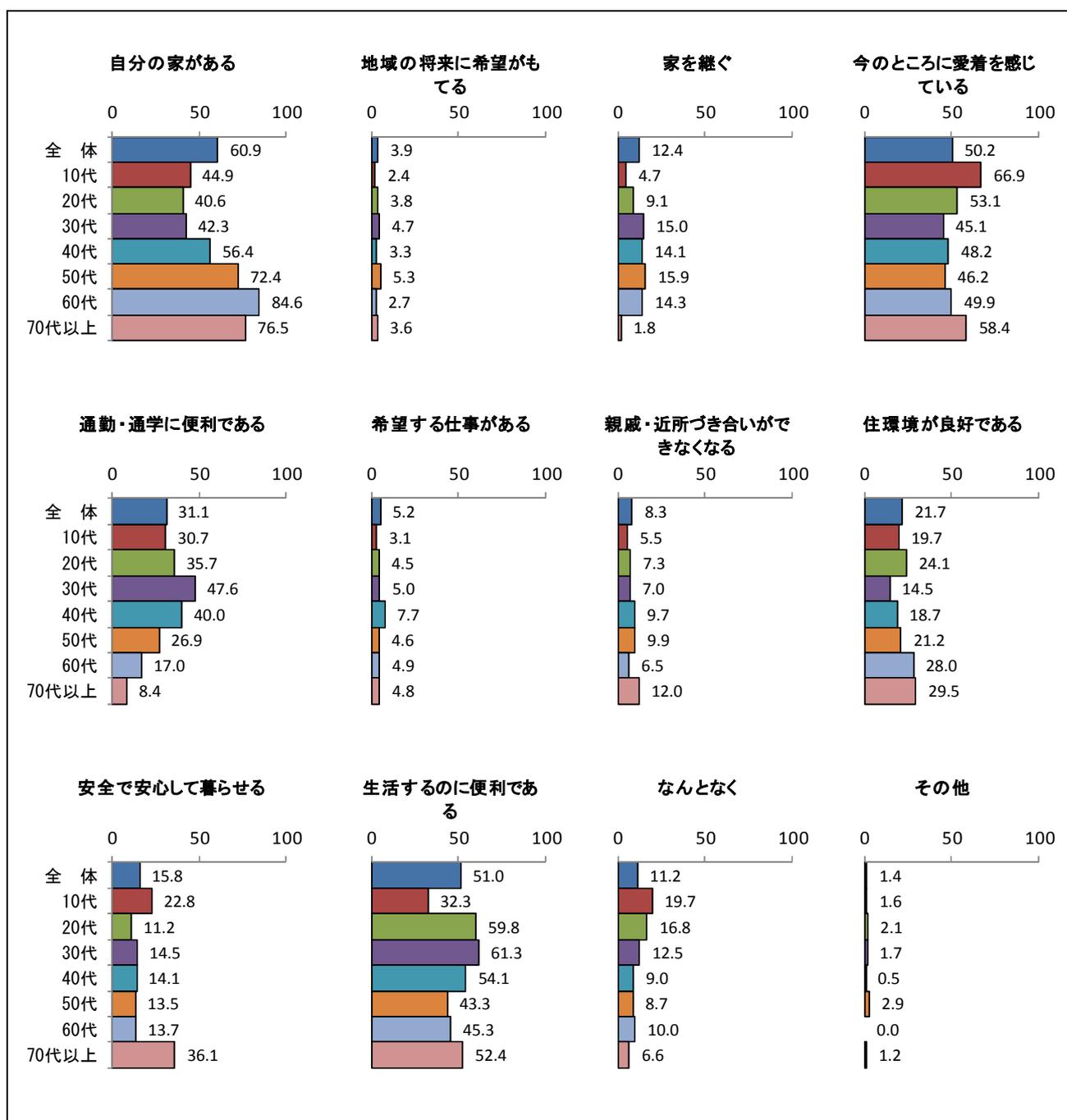
次いで定住希望の理由を地域別に見てみる。定住希望の理由で最も高い数値を示した「自分の家がある」という理由は都市部の那覇市では 52.3%と低くなっているが、北部や宮古では65%以上と高くなっている。今回新たに加えられた「通勤・通学に便利である」は、那覇市において43.9%と他と比べ大きな数値を示した。「生活するのに便利である」は、那覇市が58.6%と一番数値が高く、次いで宮古が56.1%を示した。

図 4-1-5 地域別 定住希望の理由 (%)



また、年代別で定住希望の理由を見たものが図 4-1-6 である。「通勤・通学に便利である」と回答したものを年代別で見ると、働き盛りの 30 代が 47.6%、40 代が 40.0%と高い値を示している。「自分の家がある」と回答したのは、50 代で 72.4%、60 代で 84.6%、70 代で 76.5%といずれも 70%を超えて、年齢が高くなるほど自分の持家で定住をとという意向が高くなることを示している。「生活するのに便利である」は、20 代で 59.8%、30 代で 61.3%と他の年代よりも高くなっている。「今住んでいるところに愛着を感じている」は、10 代で 66.9%と最も高い。

図 4-1-6 年代別 定住希望の理由 (%)



(3) 移転希望の理由（問 7-2）

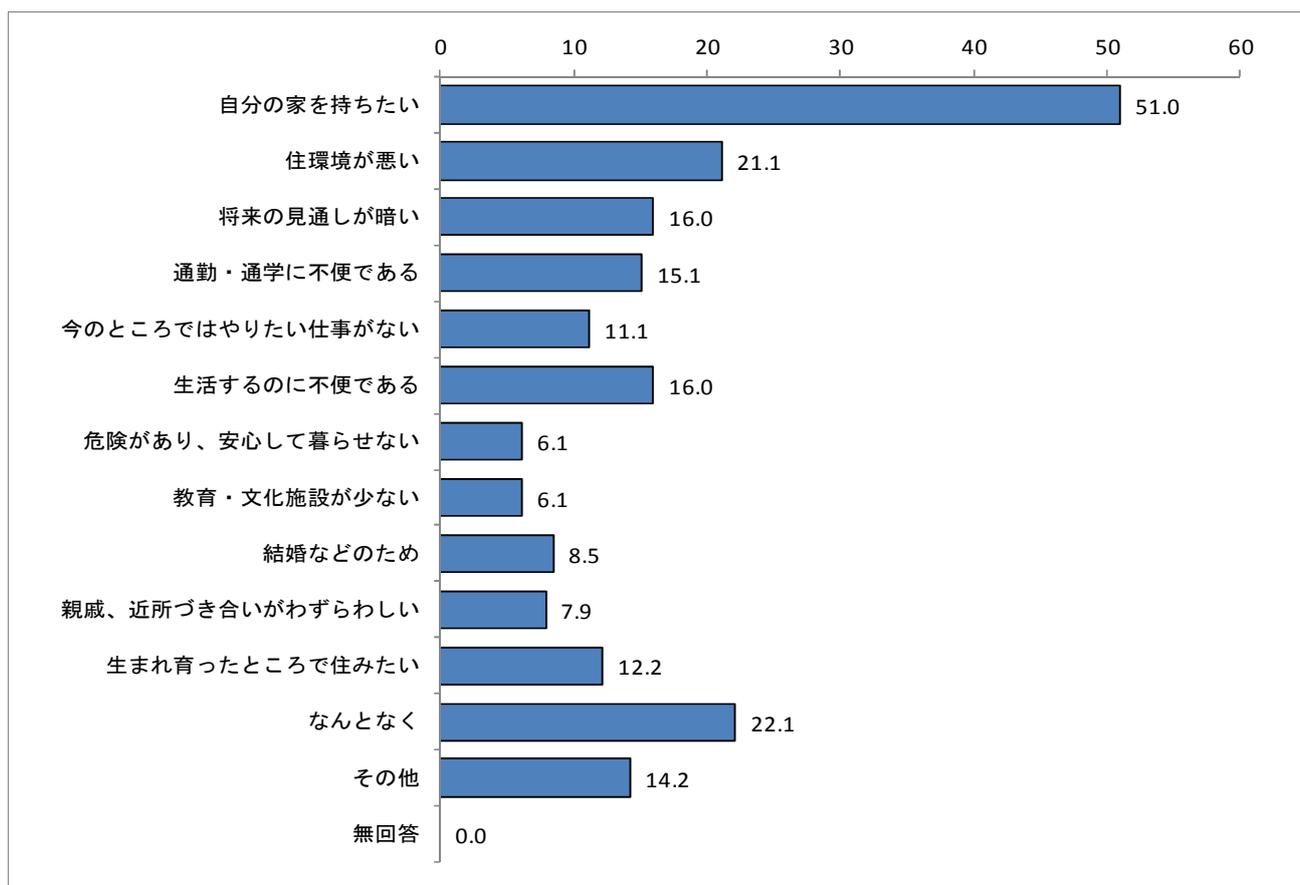
「移転型」の回答者に対して、移転を希望する理由を3つ選択してもらった。

問 7 - 2 の変更一覧

選択肢の新規追加
・通勤・通学に不便である
選択肢の削除
・わからない

前回同様「自分の家を持ちたい」（51.0%）が大きな数値を示している。「なんとなく」という回答を除くと、「住環境が悪い」、「将来の見通しが暗い」、「生活するのに不便である」を理由とする人が多い。しかし、前回調査と比較すると「今のところではやりたい仕事がない」、「今住んでいる地域は将来の見通しが暗い」、「生活するのに不便である」の割合は減少を示した。

図 4-1-7 移転希望の理由（%）

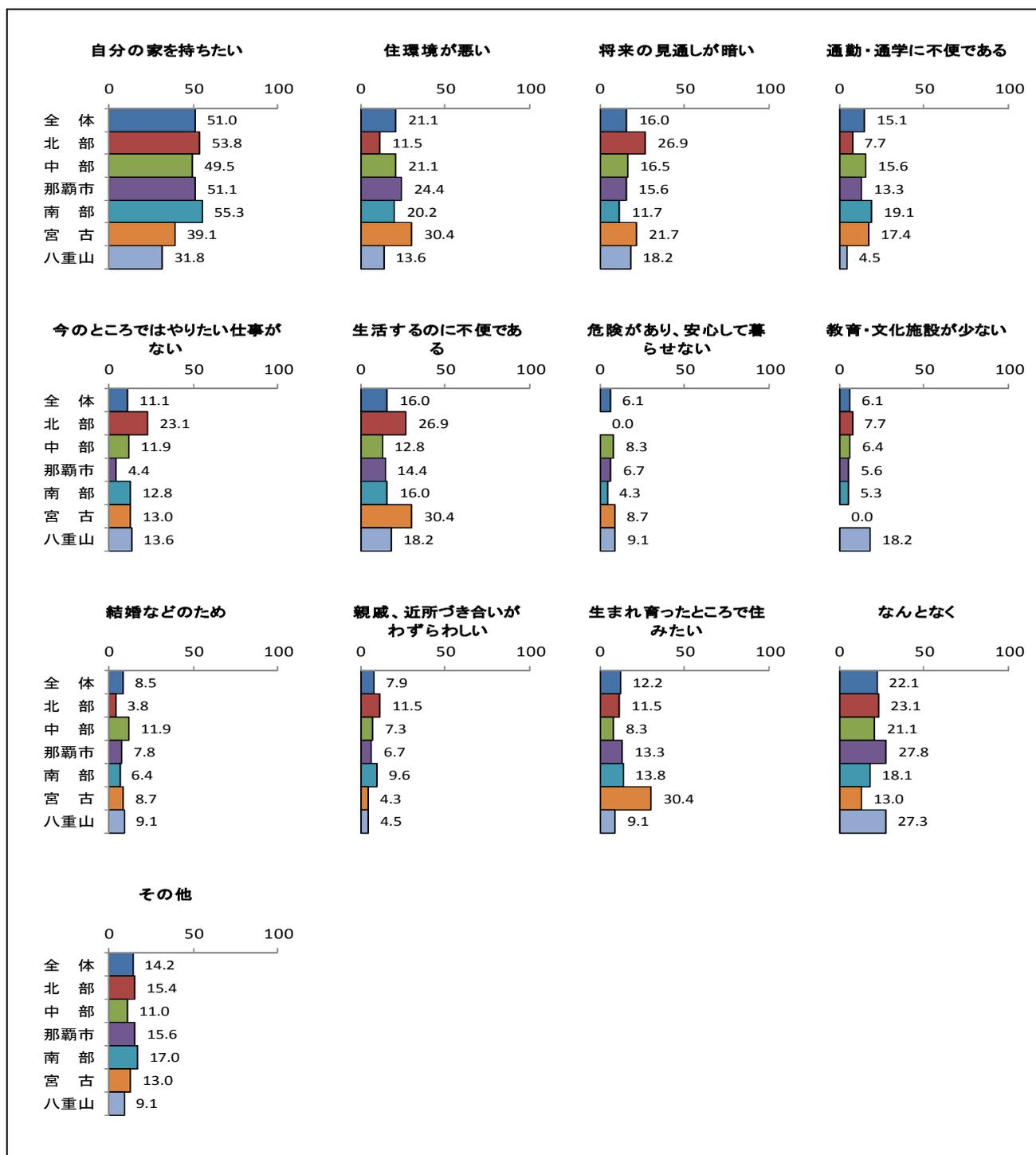


続いて、移転希望の理由を地域別で見たものが図 4-1-8 である。宮古は「住環境が悪い」、「生活するのに不便である」、「生まれ育ったところで住みたい」がいずれも他の地域より

高い数値を示している。「今のところではやりたい仕事がない」は那覇市の 4.4%を除いていずれの地域も 10%を超えている。また、北部において「今のところではやりたい仕事がない」は 23.1%、「将来の見通しが暗い」は 26.9%といずれも他の地域よりも高い。

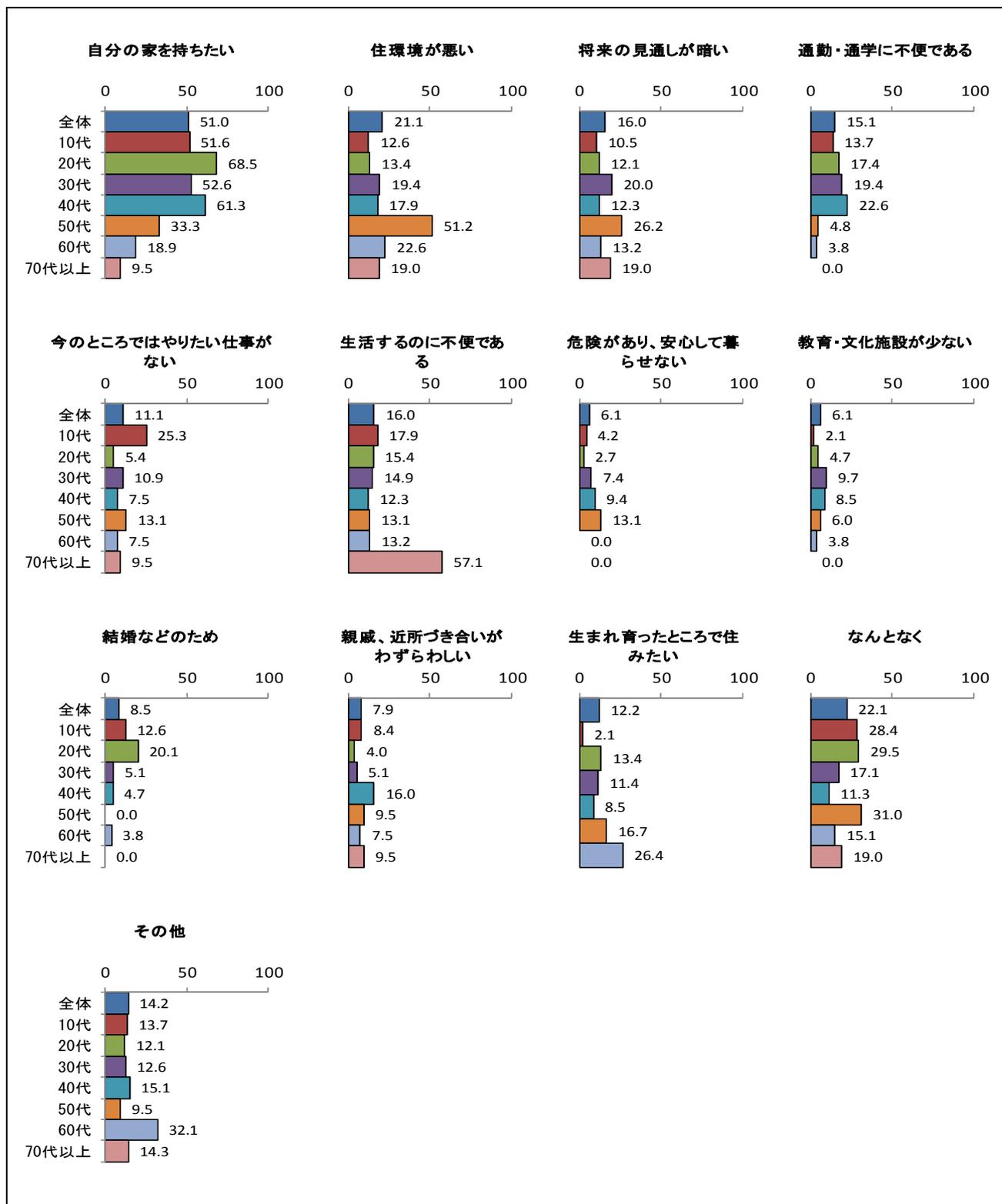
「自分の家を持ちたい」ことを理由に移転を希望するのは、北部で 53.8%、南部で 55.3%と高い数値になっている。

図 4-1-8 地域別 移転希望の理由 (%)



加えて、移転希望の理由を年代別で見たものが図4-1-9である。「自分の家を持ちたい」を移転希望の理由として一番多く答えたのは20代であり、続いて40代、30代である。「住環境が悪い」は、50代で高く（51.2%）「生活するのに不便である」は70代以上が高い（57.1%）。

図4-1-9 年代別 移転希望の理由（%）

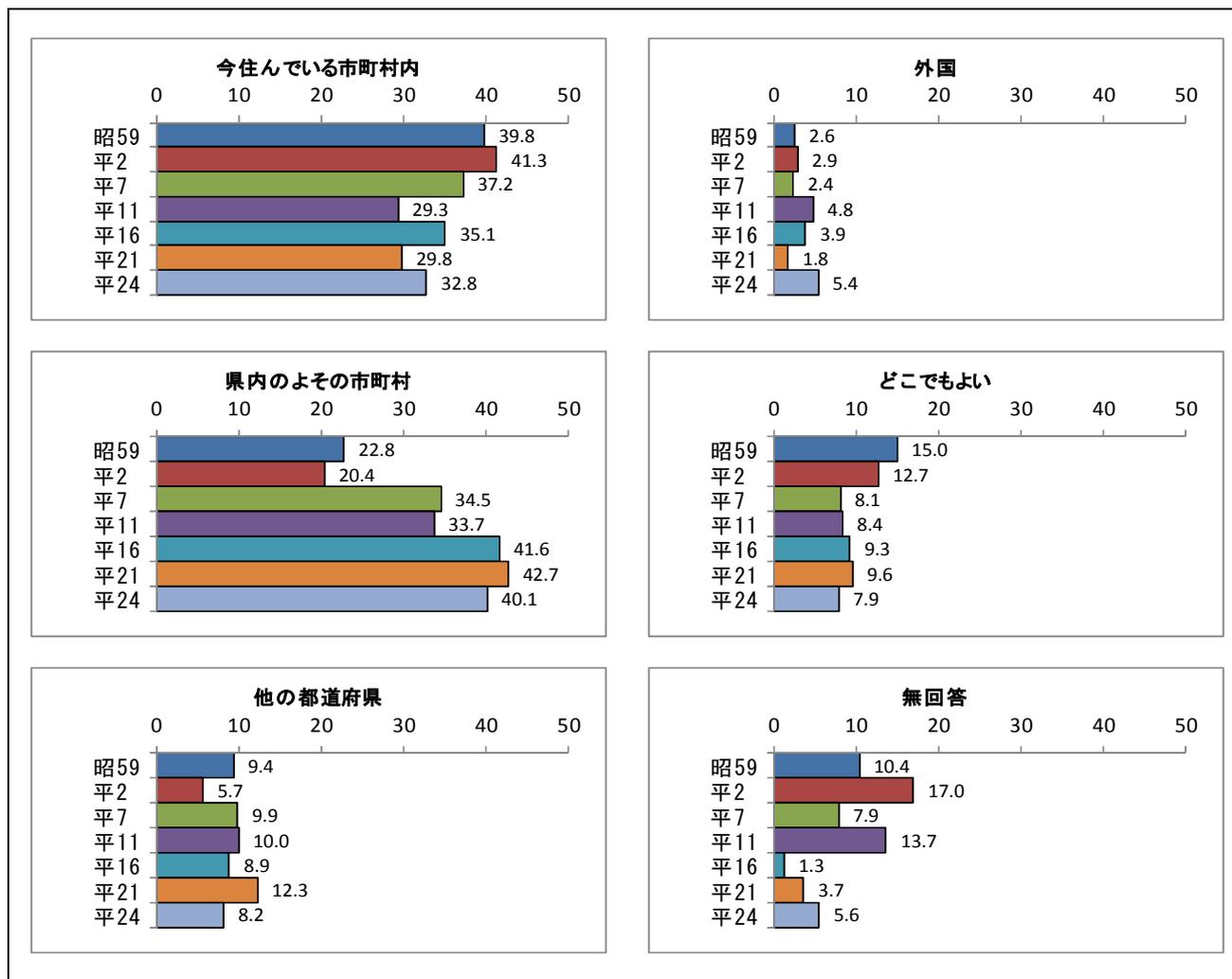


(4) 移転希望先（問 7-3）

さらに「移転型」の回答者に対して移りたい場所を5つの選択肢から選んでもらった。移転希望先の1位は、「県内のよその市町村」（40.1%）で、2位は「今住んでいる市町村内」（32.8%）で前回とその順位は変わらないが、差は縮まっている。

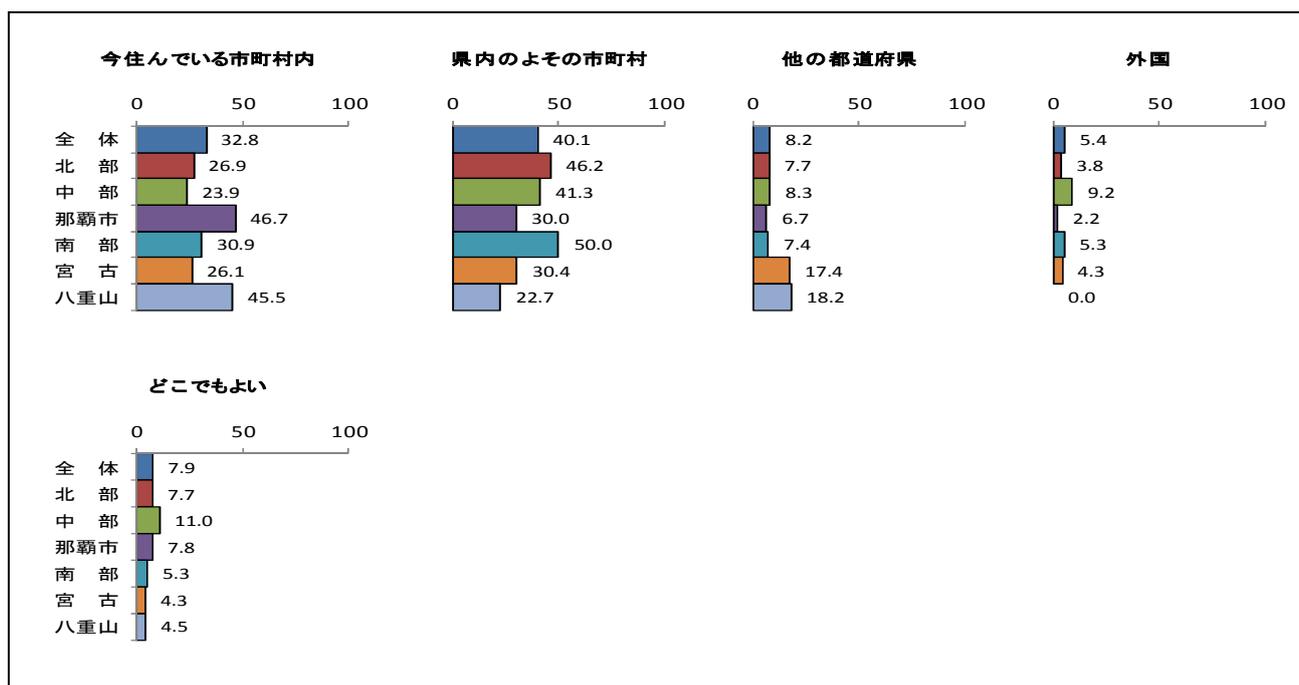
この両者をあわせた「県内移転希望」は72.9%と前回を超える数値を示しており、「ほかの都道府県」（8.2%）、「どこでもよい」（7.9%）と大きな差を示している。

図 4-1-10 時系列による移転希望先（%）



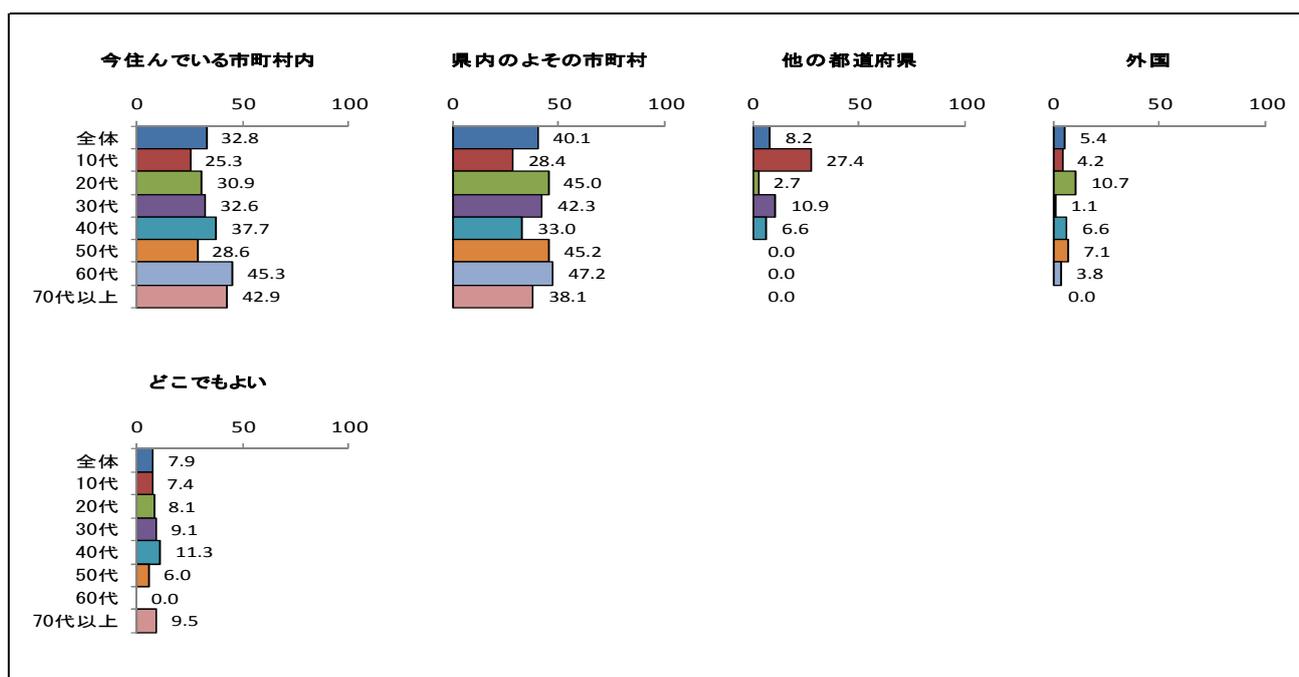
地域別に移転希望先を見たものが図 4-1-11 である。「県内のよその市町村」が最も数値が高い中で、那覇市が八重山に次いで低い。逆に、「今住んでいる市町村内」を移転先として希望している人のうち、那覇市が46.7%、八重山が45.5%と上位になっている。北部と南部は「県内のよその市町村」がそれぞれ46.2%、50.0%と高くなっている。

図4-1-11 地域別 移転希望先 (%)



移転先希望を年代別に見たものが図4-1-12である。「今住んでいる市町村内」を選択したのは、60代の45.3%、70代の42.9%がほかの年代より高くなっている。「県内のよその市町村」への移転を希望しているのは20代で45.0%、30代で42.3%、50代で45.2%、60代で47.2%と県全体の数値を超えている。

図4-1-12 年代別 移転希望先 (%)



2. 県（民）の長所・短所（問8）

(1) 県（民）の長所（問8-1）

本県あるいは県民の「長所」についてどのように認識しているか、13の選択肢の中から1位、2位、3位と順位をつけて3つを選択してもらった。前回調査では12の選択肢であったが、今回はこれに「沖縄独特のまちなみ、景観がある」を新たに加えた。

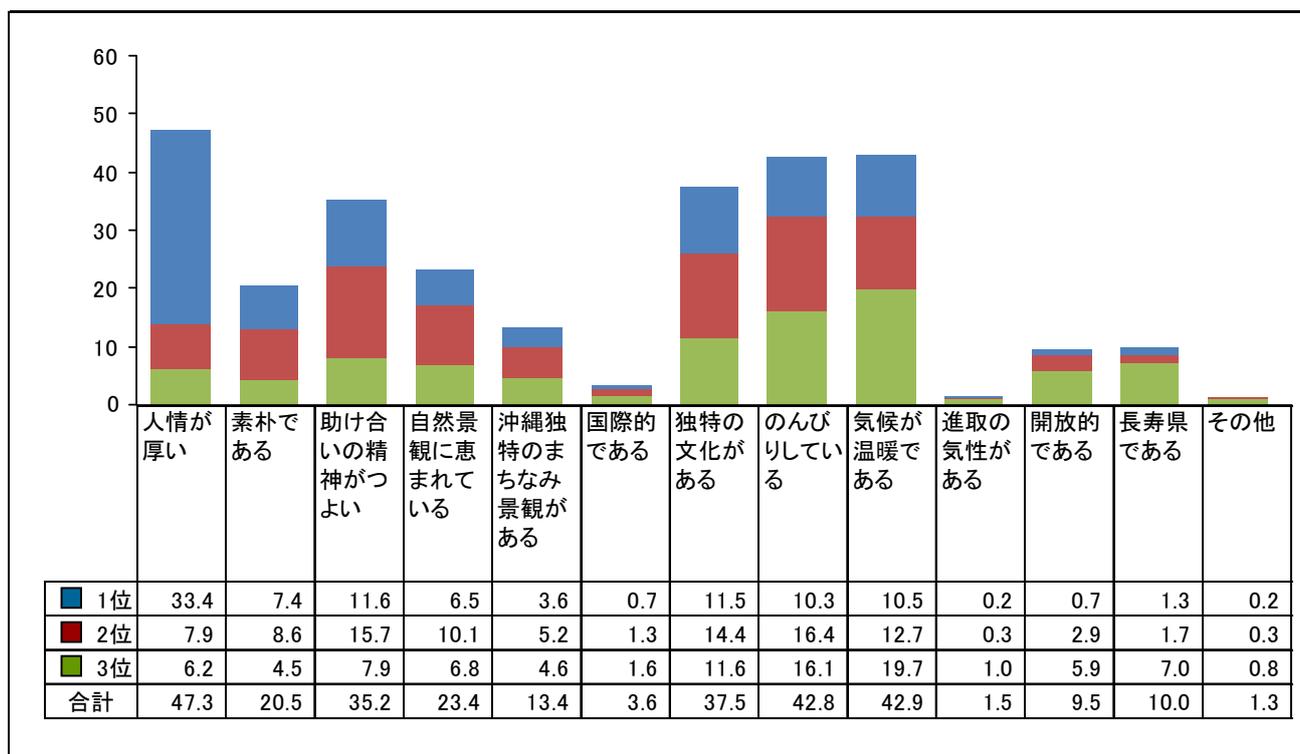
問8-1の変更一覧

選択肢の新規追加

・沖縄独特のまちなみ景観がある

県（民）の長所をどう意識しているか県全体で見てみたのが図4-2-1である。選択肢が前回とは異なるため単純な比較はできないが、前回同様「人情が厚い」（47.5%）を長所ととらえている比率がもっとも高い。その他では「気候が温暖である」（42.9%）、「のんびりしている」（42.8%）、「独特の文化がある」（37.5%）、「助け合いの精神が強い」（35.2%）などの項目が高い数値となっている。

図4-2-1 県（民）の長所（%）



選択された長所を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウェイトづけをして、各長所の加重平均を求め県全体の評価を示し、さらにそれを時系列で見たものが図4-2-2である。時系列比較に関しては、今回の調査で「沖縄独特のまちなみ景

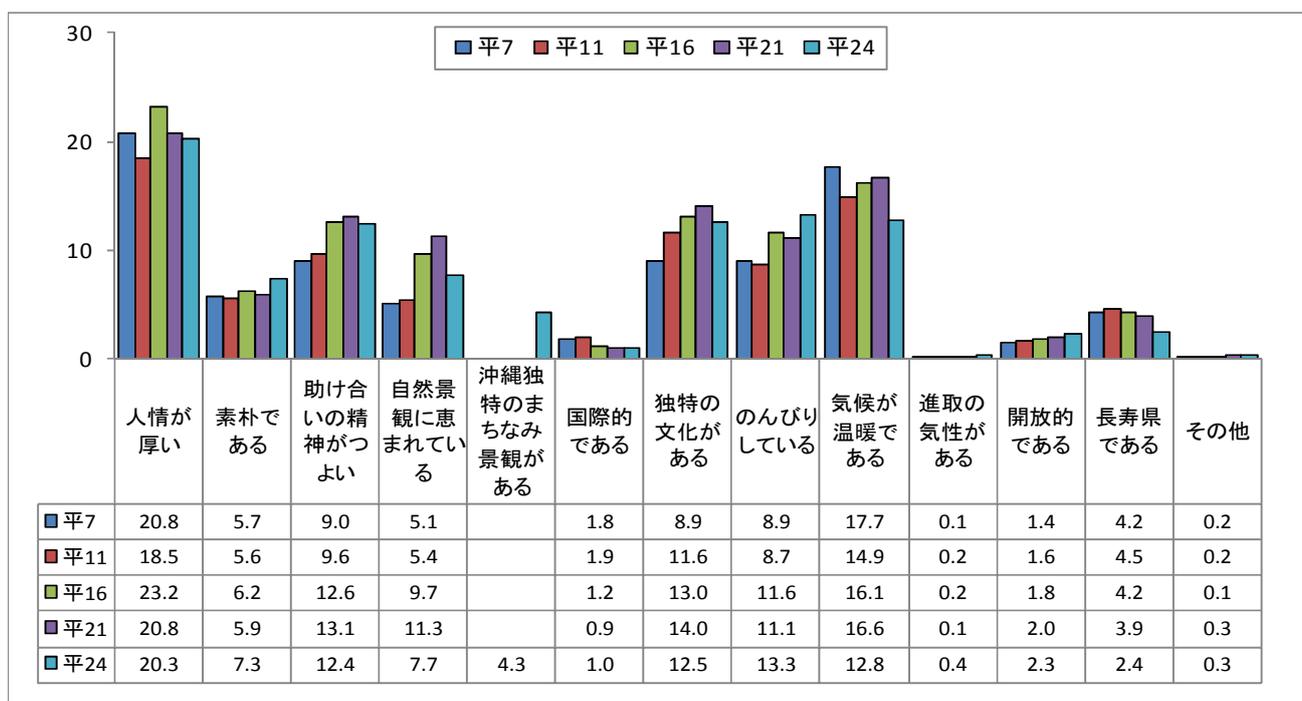
観がある」を加えたため、単純な比較をすることは注意を要する。

長所として最も高い数値を示している項目は「人情が厚い」(20.3)であり、前回と比較すると0.5減少しているものの、他の項目より大きくなっている。これに「のんびりしている」(13.3)、「気候が温暖である」(12.8)、「独特の文化がある」(12.5)、「助け合いの精神がつよい」(12.4)が続いている。

前回より大きく数値を落としているのは「自然景観に恵まれている」で、11.3から7.7へと減少している。しかし、今回新たに加えた「沖縄独特のまちなみ、景観がある」は4.3であるためこれを加算して考えると前回とそれほどの変化にはならない。そのほかで前回と比較して数値を減らしているのは「独特の文化がある」、「気候が温暖である」、「長寿県である」となっている。

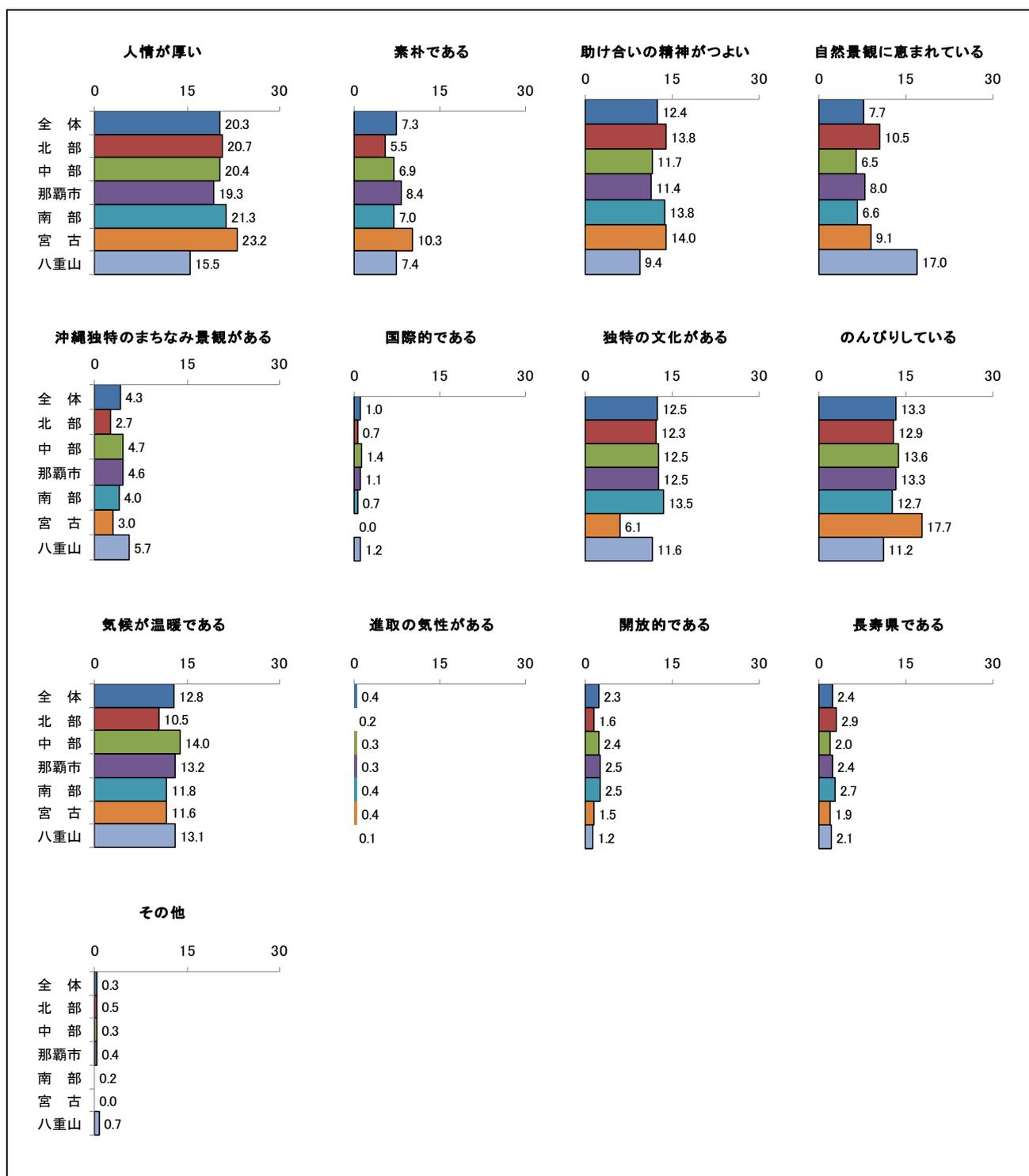
一方、「素朴である」(7.3)、「のんびりしている」(13.3)は前回よりやや高い数値となっている。

図4-2-2 県(民)の長所(加重平均)



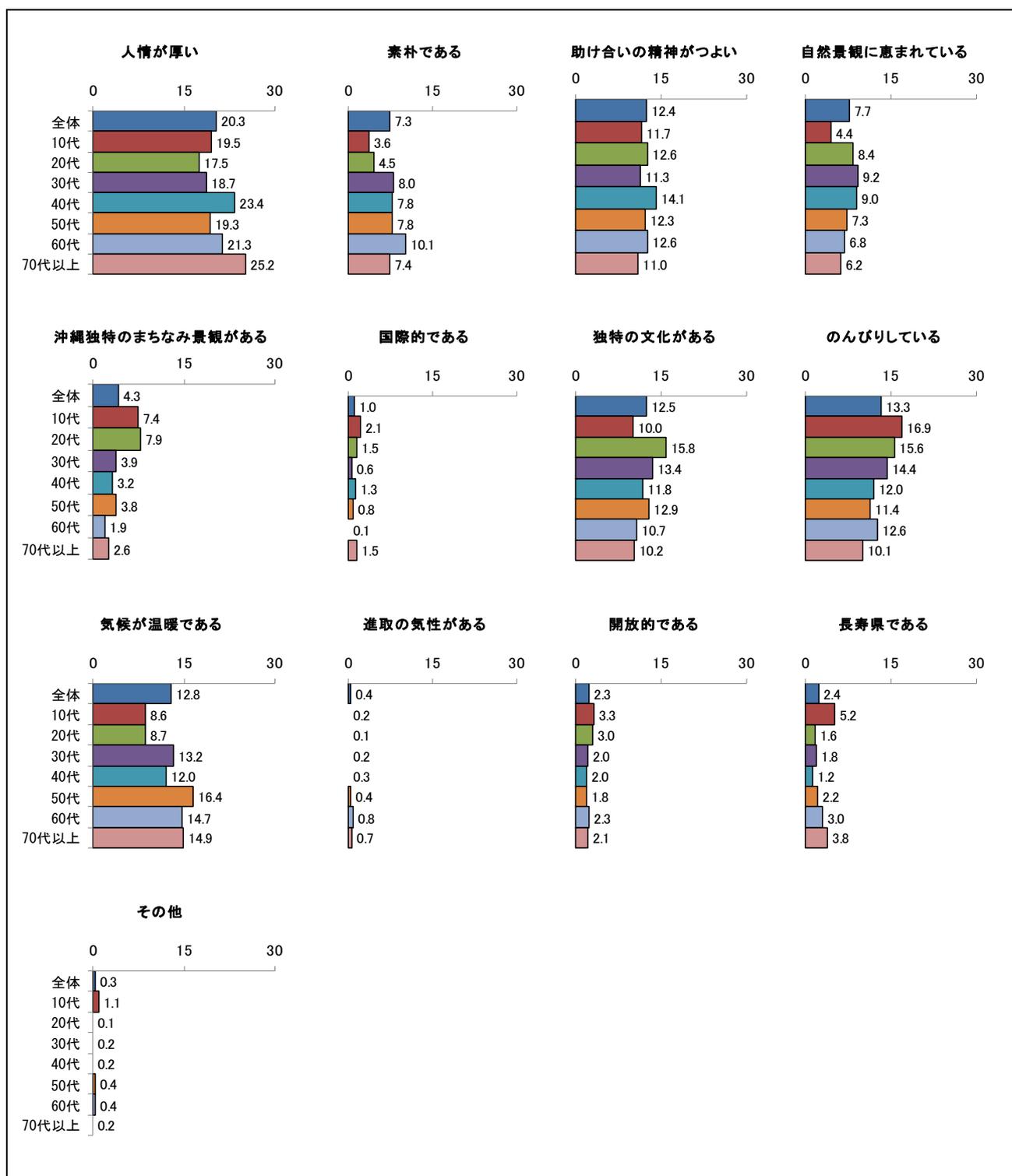
県(民)の長所をどう認識しているかを地域別で見たのが図4-2-3である。北部、中部、那覇市、南部の地域別ではほとんど差が認められないが、離島においては大きな差が見られる。「人情が厚い」では宮古が23.2ともっとも高い数値を示し、八重山が対照的に15.5ともっとも低い数値を示している。その他の項目では「素朴である」も同様の傾向が見られる。「自然景観に恵まれている」では八重山が17.0で他と比べて大きな数値を示した。

図4-2-3 地域別 県(民)の長所(加重平均)



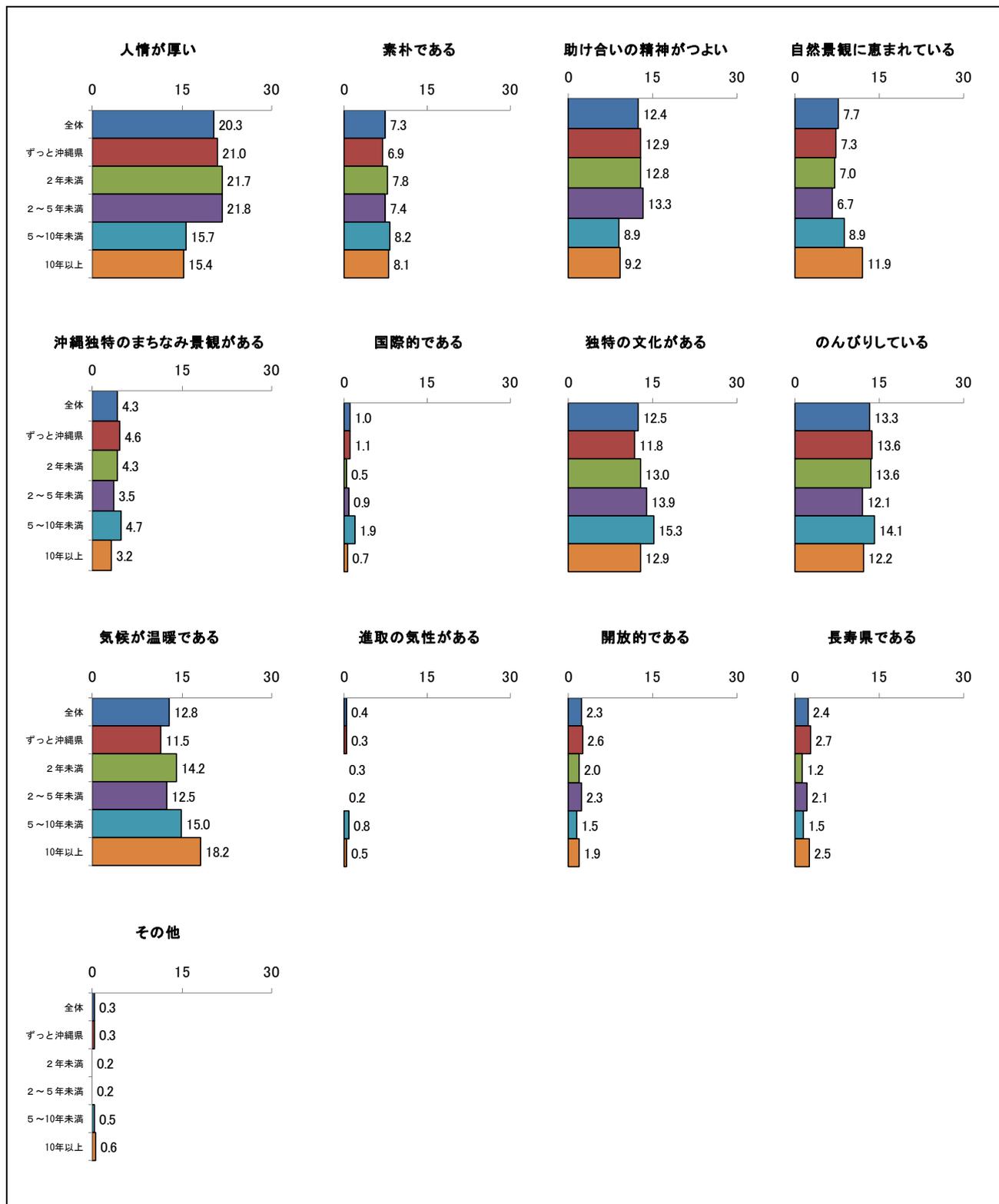
県（民）の長所の認識を年代別で見たのが図 4-2-4 である。「人情が厚い」はどの年代においても長所として高い数値を得ている。40代（23.4）、50代（19.3）、60代（21.3）、70代以上（25.2）と高い数値となっている。「気候が温暖である」についても中高年代層の数値は高くなっているが、若い年代で低い。その他は、「沖縄独特のまちなみ、景観がある」の項目で10代（7.4）20代（7.9）と他の世代と比較して高い値となっている。

図 4-2-4 年代別 県（民）の長所（加重平均）



県外居住経験の年数によって県（民）の長所の認識に差が出てくるかどうかを見たのが図 4-2-5 である。県外居住経験のない人、県外居住経験の少ない人ほど「人情が厚い」を長所とする高い傾向が見られる。これと対照的に「気候が温暖である」の選択は県外居住年数が長い人ほど高くなる傾向が見られる。

図 4-2-5 県外居住経験 県（民）の長所（加重平均）



(2) 県（民）の短所（問8-2）

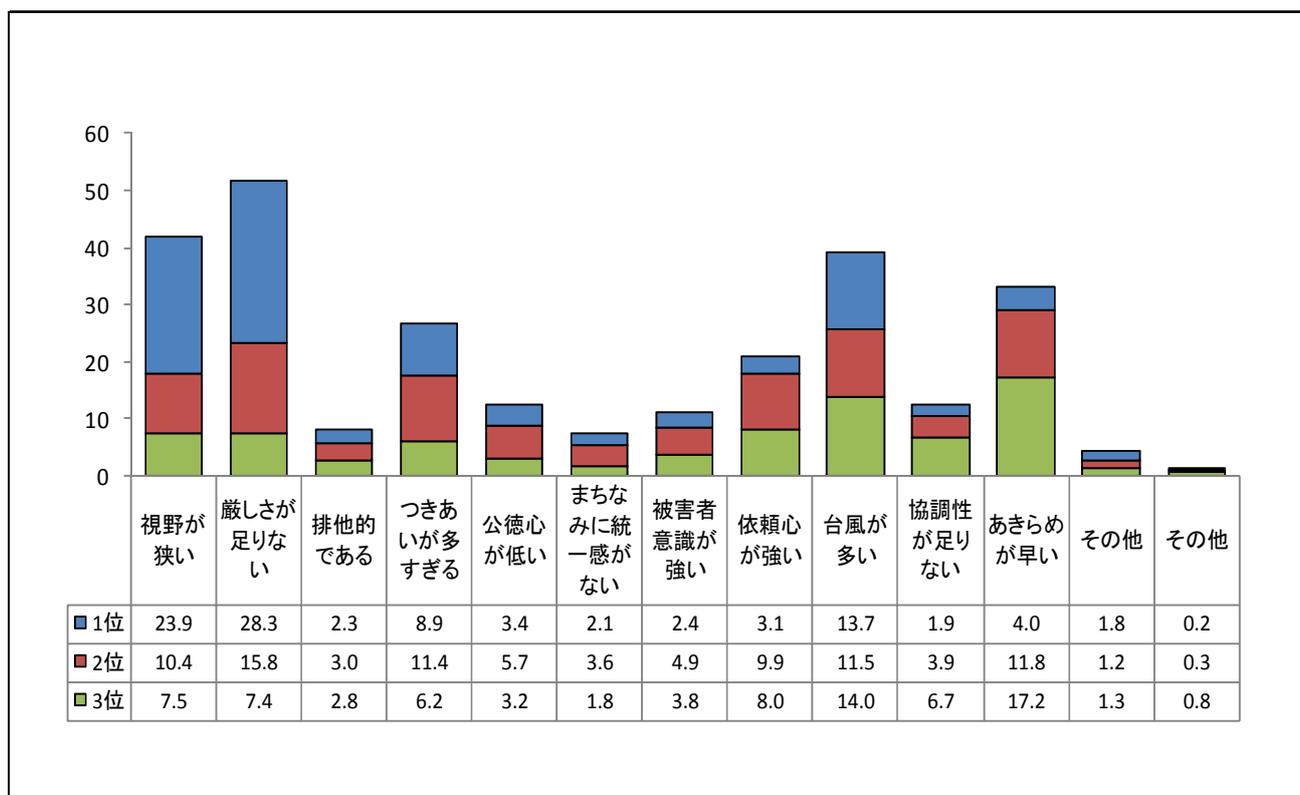
長所と同様に、本県あるいは県民の「短所」について、12の選択肢から順位をつけて3つを選択してもらったのが図4-2-6である。前回の調査では「離島が多い」が入っていたが、今回この選択肢はない。新たに「まちなみに統一感がない」の選択肢を追加している。そのため、前回との単純な比較はできない。

問8-2の変更一覧

選択肢の新規追加
・まちなみに統一感がない
選択肢の削除
・離島が多い

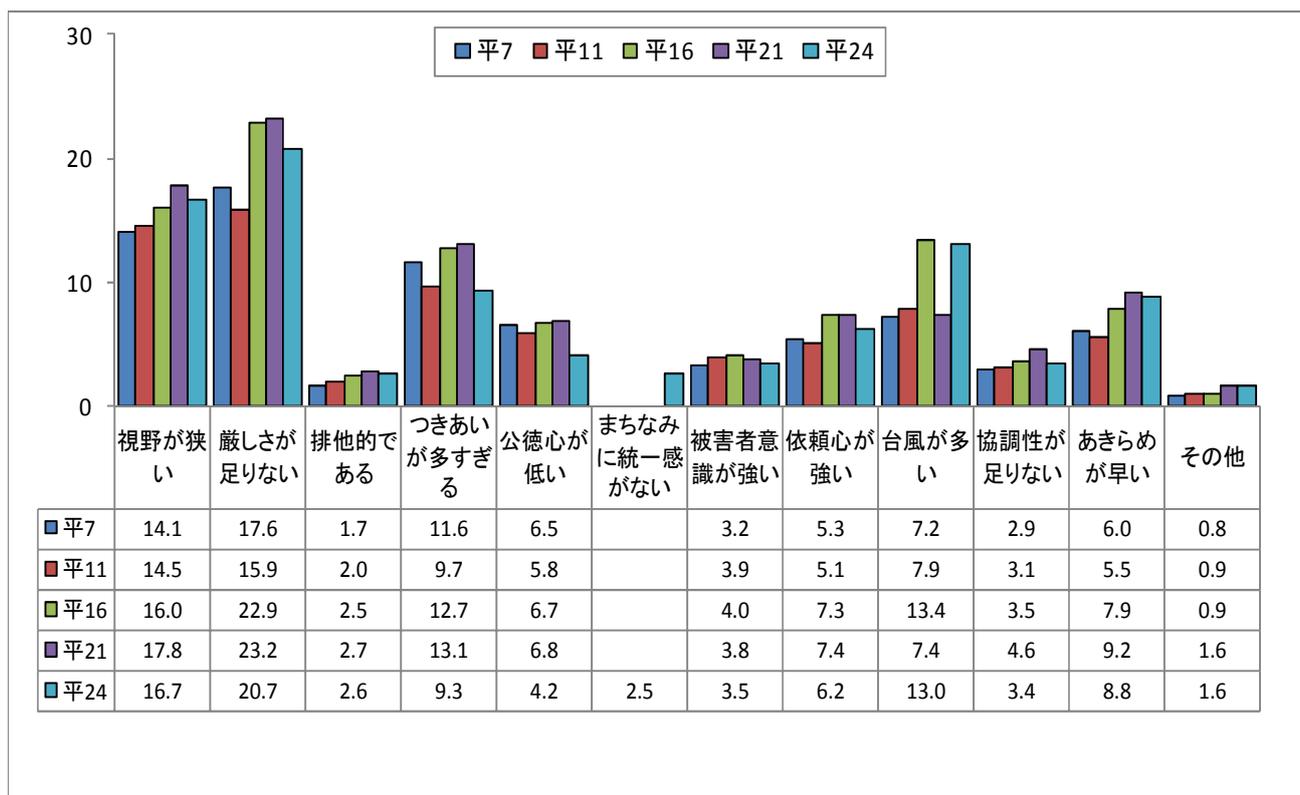
「厳しさが足りない」が短所として最も高い数値（51.5%）を示している。次いで「視野が狭い」（41.8%）、「台風が多い」（39.2%）が続く。ここまでは、1位から3位までの合算でも高い数値になっている。「あきらめが早い」（33.0%）は4番目に高いが、1位にあげた人は4.0%に過ぎない。

図4-2-6 県（民）の短所（%）



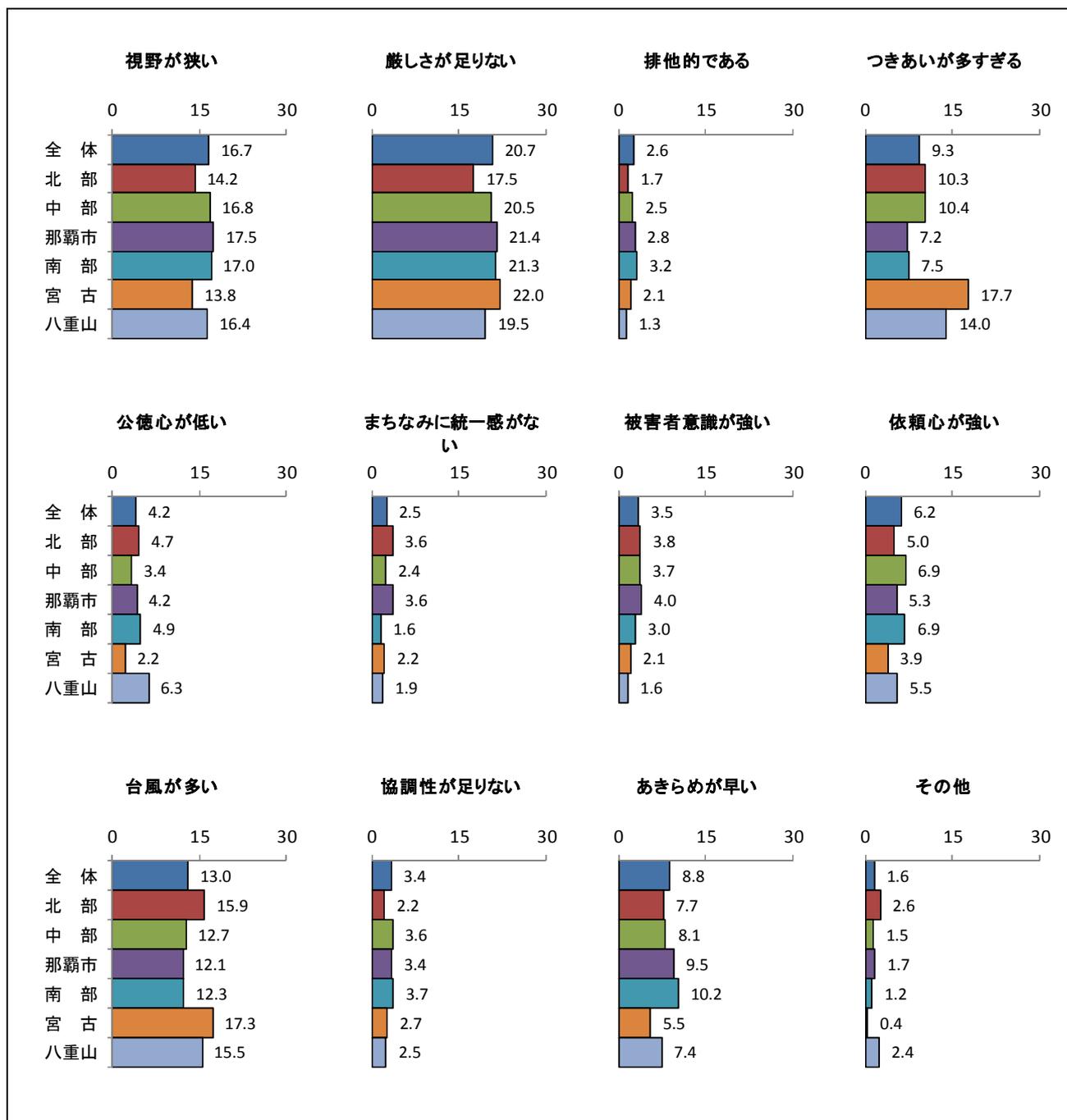
選択された短所を総合的に見るため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウエイトづけをして各短所の加重平均を求めた。加重平均で見た時系列の県(民)の短所が図4-2-7である。短所として最も高い数値を示しているのは前回と同じく「厳しさが足りない」(20.7)だが、前回調査よりは減少している。これに続くのは「視野が狭い」(16.7)、「台風が多い」(13.0)。前々回より前回で大きく減少した「台風が多い」は、今回ほぼ前々回並みの水準に戻している。

図4-2-7 県(民)の短所(加重平均)



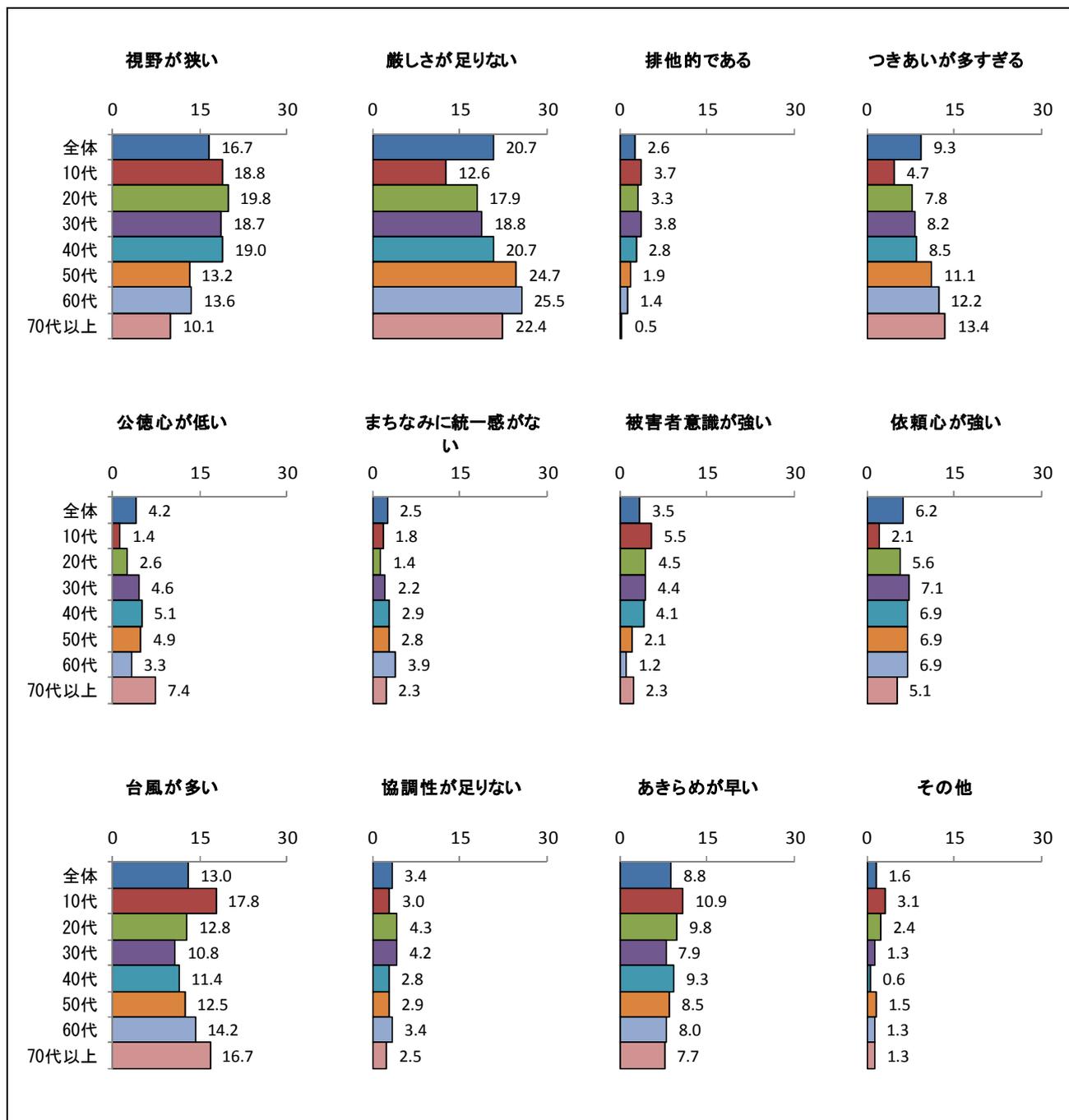
県民が短所をどう見ているか地域別で見たのが図4-2-8である。地域差が出ているのは「つきあいが多すぎる」で宮古は17.7、八重山は14.0と本島と比べて差が出ている。また、「台風が多い」は、北部（15.9）のほか宮古（17.3）、八重山（15.5）で高い数値を示している。全体で最も高い数値を示した「厳しさが足りない」を地域別に見てみると、もっとも低い数値を示したのが北部である。

図4-2-8 地域別 県（民）の短所（加重平均）



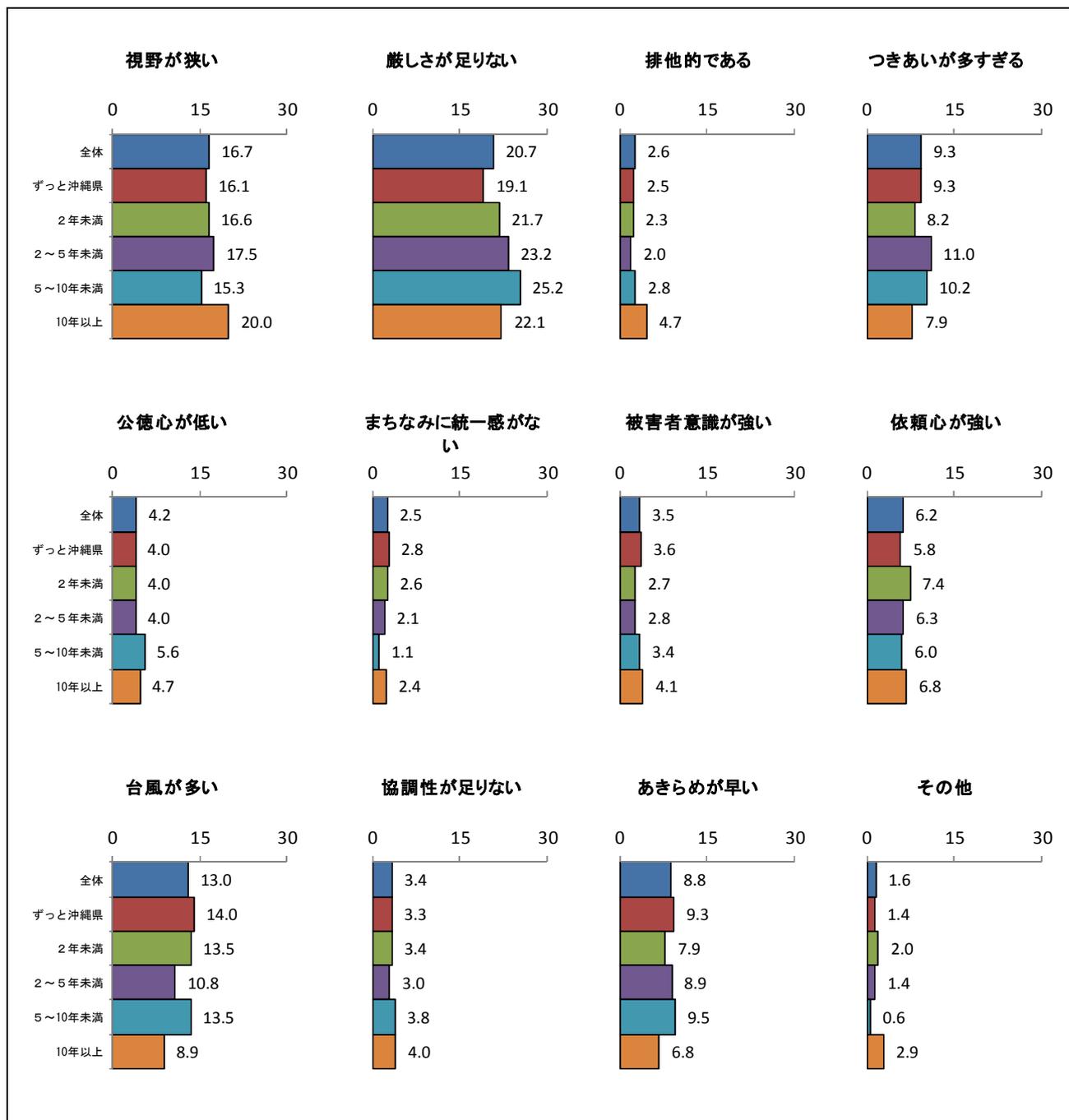
年代別に見ると、短所として県平均で1位の「厳しさが足りない」という項目は、概ね年代が高くなるにつれて短所として認識される割合が高くなる。「つきあいが多すぎる」も同様の傾向がある。10代では「視野が狭い」、「台風が多い」、「あきらめが早い」などが他の年代に比べ、高い数値を示している。

図 4-2-9 年代別 県（民）の短所（加重平均）



県外居住経験によって県（民）の短所の見方に違いがあるのかどうかを見たのが図4-2-10である。いずれの選択肢においても、長所ほどには明らかにはなりにくいようである。このような傾向において「視野が狭い」は「10年以上」（20.0）に最も多く、「厳しさが足りない」は、「5～10年未満」（25.2）に最も多い。

図4-2-10 県外居住経験 本県（民）の短所（加重平均）



3. 米軍基地に対する要望（問 13）

(1) 順位別に見た米軍基地に対する要望

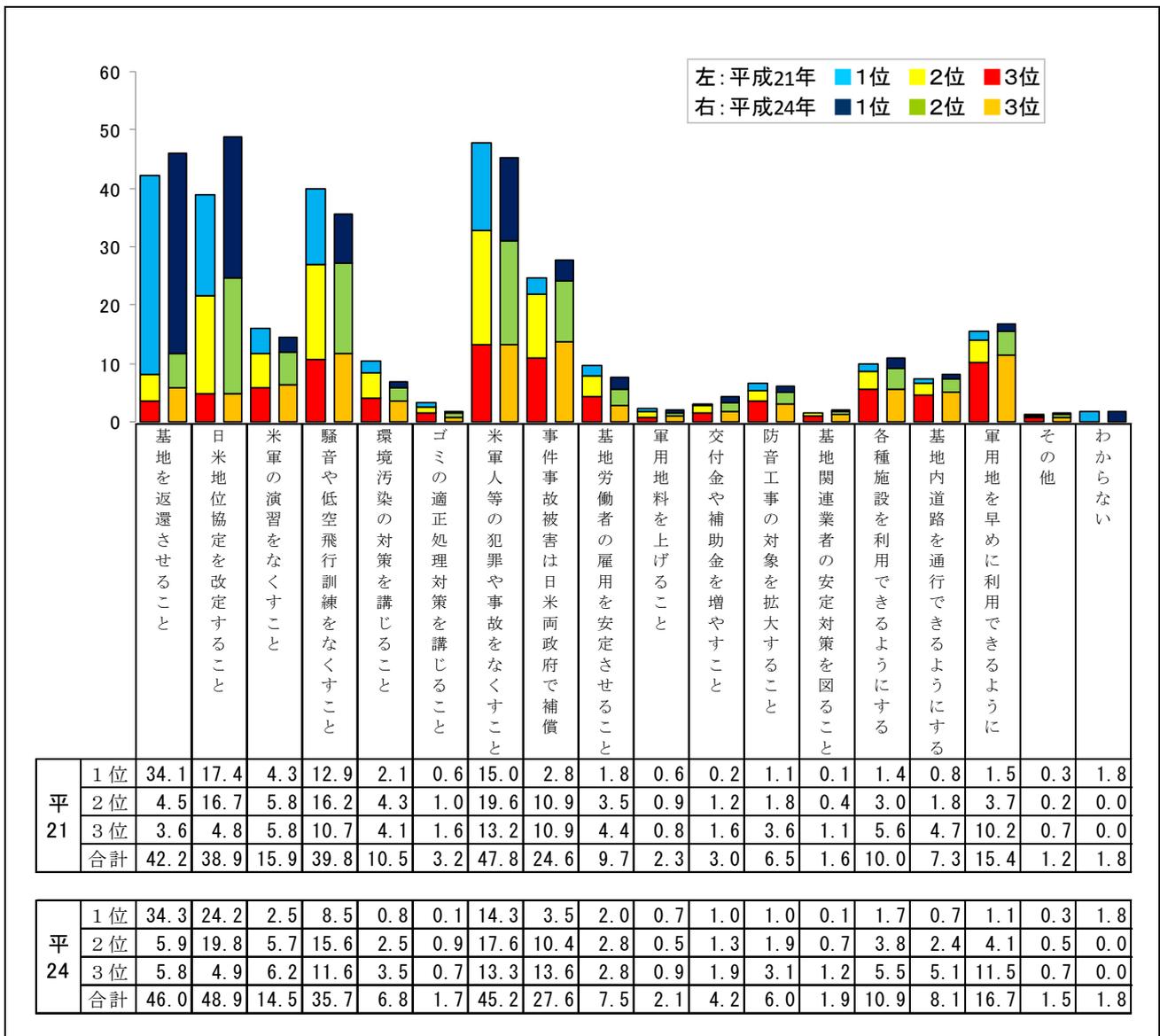
米軍基地から派生する様々な課題について選択肢を示し、県や国として特に力を入れてほしいものについて、順位を付けて3つ選んでもらった。

問 13 の変更一覧

選択肢の削除
・返還後も、跡地が利用されるまで軍用地料を補償すること

前回調査（平成 21 年調査）結果との比較で示したのが図 4-3-1 である。

図 4-3-1 米軍基地に対する要望（％）



その結果、力を入れてほしい対策の第1位としては「基地を返還させること」(34.3%)が最も高く、次いで「日米地位協定を改定すること」(24.2%)、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(14.3%)の順となっている。この順位は前回調査と比べて変化は見られない。

第2位については、「日米地位協定を改定すること」(19.8%)が最も高く、次いで、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(17.6%)、「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」(15.6%)、「事件事故被害は日米両政府で補償」(10.4%)といった順に要望が高い。

第3位については、「事件事故被害は日米両政府で補償」(13.6%)が最も高く、次いで「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(13.3%)、「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」(11.6%)、「返還された軍用地を早めに利用できるようにすること」(11.5%)の順となっている。

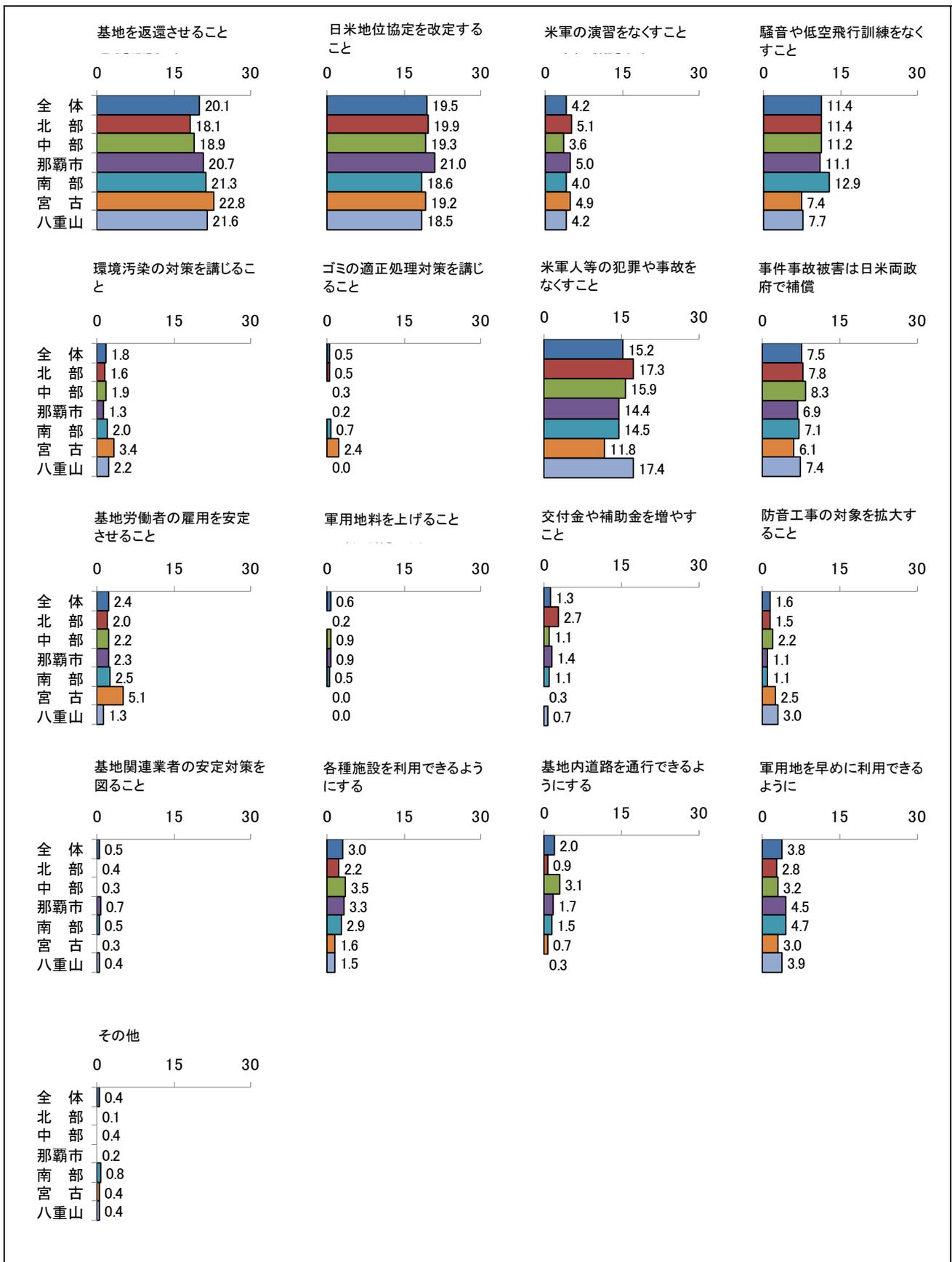
これら1～3位の合計では、前回調査が「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(47.8%)が最も高く、続いて「基地を返還させること」(42.2%)、「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」(39.8%)の順で高かったのに対して、今回の調査では「日米地位協定を改定すること」(48.9%)が最も高く、次いで「基地を返還させること」(46.0%)、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(45.2%)の順となっている。

(2) 地域別で見た米軍基地に対する要望

沖縄県を6地域(北部、中部、那覇市、南部、宮古島、八重山)に分けて、米軍基地に対する要望を加重平均で比較したのが図4-3-2である。この図より、上位項目は図4-3-1で見たように、「基地を返還させること」、「日米地位協定を改定すること」そして「米軍等の犯罪や事故をなくすこと」への要望がすべての地域で高く見られる。

地域間の比較で特徴的な結果を示しているのが宮古地域で、「基地を返還させること」(22.8)や「環境汚染の対策を講じること」(3.4)、「ゴミの適正処理対策を講じること」(2.4)、「基地労働者の雇用を安定させること」(5.1)の選択肢で、他地域よりも高い関心を見せている。逆に、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」では、宮古が最も少なく11.8であるのに対し、八重山では17.4と全体で最も高い。

図 4-3-2 地域別 米軍基地に対する要望（加重平均）

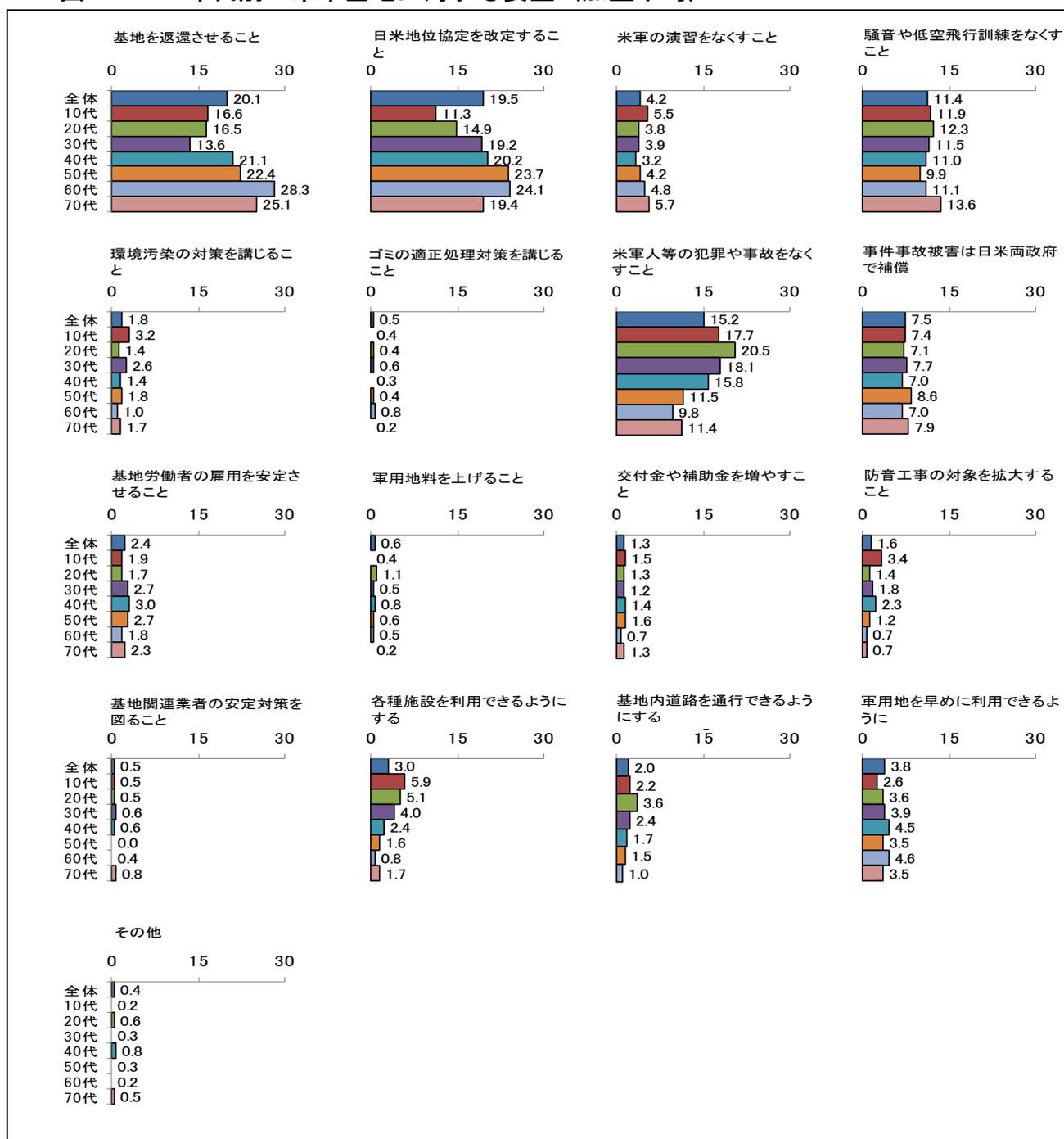


(3) 年代別で見た米軍基地に対する要望

年代別による米軍基地に対する要望を加重平均で比較したのが図 4-3-3 である。

この年代別をさらに本土復帰以降に生まれた 10 代～30 代と、復帰以前に生まれた 40 代以降とに分けて比較すると、10 代～30 代では「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」、「基地内の各種施設を気軽に利用できるようにすること」といった項目で 40 代以上よりも総体的に高い関心が見られる。逆に 40 代以上は「基地を返還させること」や「日米地位協定を改定すること」で 10 代～30 代よりも高い結果となっている。

図 4-3-3 年代別 米軍基地に対する要望（加重平均）



(4) 性別で見た米軍基地に対する要望

性別による米軍基地に対する要望を加重平均で比較したのが図 4-3-4 である。

「日米地位協定を改定すること」では男性が女性よりも相対的に高く、逆に「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」や「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」では女性が男性よりも高い結果となっている。

図 4-3-4 性別 米軍基地に対する要望（加重平均）

